

資料3: その他の地域で実施されている主要フェスティバルの概要

		京都国際舞台芸術祭 KYOTO EXPERIMENT	TPAM(国際舞台芸術ミーティング in 横浜)	あいちトリエンナーレ	ヨコハマトリエンナーレ
開催概要	会期	2012/9/22～2012/10/28	2012/2/13～2012/2/19	2010/8/21～2010/10/31	2011/8/6～2011/11/6
	会場	京都芸術センター、元・立誠小学校、京都芸術劇場 春秋座、京都府立府民ホール アルティ、METRO、Gallery PARC	ヨコハマ創造都市センター(YCC)、BankART Studio NYK 横浜赤レンガ倉庫1号館、KAAT神奈川芸術劇場、横浜美術館レクチャーホール、のげシャレ(横浜にぎわい座)、象の鼻テラス、STスポット、nitehi works	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場 ※その他、名古屋城、オアシス21、中央広小路ビル、セツ寺共同スタジオなど	横浜美術館、ヨコハマ創造都市センター、日本郵船海外通倉庫、その他周辺地域
	主催	京都国際舞台芸術祭実行委員会	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2012 実行委員会(構成団体:国際交流基金、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、国際舞台芸術交流センター)	あいちトリエンナーレ実行委員会、愛知芸術文化センター、名古屋市美術館	横浜市、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会
	共催	立誠・文化のまち運営委員会、京都府立府民ホール アルティ		(特別協力)国際交流基金	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団・(特別協力)国際交流基金
	協賛	株式会社資生堂	株式会社野毛印刷社	(協賛)社団法人愛知県医師会 / トヨタ自動車株式会社 / イオン株式会社 / 社団法人愛知県歯科医師会 / 愛知県私学協会 / 東海旅客鉄道株式会社 / 株式会社ナゴヤキャッスル / 社団法人愛知県宅地建物取引業協会 / 中部電力株式会社 / 東和不動産株式会社 / 長澤順子 / 社団法人愛知県私立幼稚園連盟 / キリックスグループ / 社団法人愛知県薬剤師会 / 名港海運株式会社 / 名古屋南ロータリークラブ / 株式会社JTB 中部 / 株式会社宇佐美鉱油 / 岡谷鋼機株式会社 / 株式会社資生堂 / 東邦ガス株式会社 / 株式会社ニッショー / モリシン株式会社 その他	三菱地所株式会社、森ビル株式会社、日産自動車株式会社、株式会社JVCケンウッド、株式会社大林組、川本工業株式会社、株式会社資生堂株式会社ワコール、株式会社崎陽軒、株式会社サカタのタネ、横浜銀行、馬淵建設株式会社、みなとみらい21、熱供給株式会社、アサヒビール株式会社、株式会社JVCケンウッド
	助成	平成24年度文化庁国際芸術交流支援事業、公益財団法人セゾン文化財団、公益財団法人アサヒビール芸術文化財団、EU・ジャパンフェスト日本委員会	スペイン文化省グラシアン基金、平成23年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業	財団法人地域創造 / 芸術文化振興基金 / Australia Council for the Arts / CULTURESFRANCE / Bundesministerium für Unterricht, Kunst und Kultur / オーストリア大使館(オーストリア文化フォーラム) / State Corporation For Spanish Cultural Action Abroad (SEACEX) / プリティッシュ・カウンシル / 社団法人私的録音補償金管理協会(sarah) / フランス大使館 / 公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団 / MexicoConaculta / Goethe-Institut Japan in Kyoto(ドイツ文化センター(京都)) / 財団法人東海テレビ国際基金 / Arts Council England / 関西日仏交流会館 ヴィラ九条山 / La République et Canton de Genève / La Ville de Genève / Pro Helvetia / Ville de Lille / La Fondazione del Collegio Artistico Venturoli di Bologna	文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)、Asian Cultural Council、財団法人アサヒビール芸術文化財団、公益財団法人野村財団、Iaspis
	後援		横浜市、神奈川県	文化庁 / オーストラリア大使館 / ベルギー王国大使館 / ベルギーフランドル交流センター / 東京日仏学院	(協力)株式会社キタムラ、京浜急行電鉄株式会社、相模鉄道株式会社、ソフトバンク、テレコム株式会社、東京急行電鉄株式会社、日本航空、日本飛行機株式会社、株式会社ボンパドウル、横浜高速鉄道株式会社、横浜市交通局、ライトウェイ、プロダクツ、ジャパン株式会社
	事務局	京都国際舞台芸術祭実行委員会事務局	国際舞台芸術交流センター	あいちトリエンナーレ実行委員会	横浜トリエンナーレ組織委員会

		京都国際舞台芸術祭 KYOTO EXPERIMENT	TPAM(国際舞台芸術ミーティング in 横浜)	あいちトリエンナーレ	ヨコハマトリエンナーレ
目的と概要		・国際フェス ・作品が上演されるだけでなく、さまざまな交流が生まれる刺激的な“場”と、舞台芸術が京都という街と出会い、観客と出会うことで、次代を切り拓く新たなヴィジョンを創造する取り組みとなることを目指す。2012年で3回目となる。日本人アーティストによる6演目、ブラジル、アイスランド、イギリス、ドイツ、シンガポールからそれぞれ1演目、合計11演目の公式プログラムを紹介。若手演出家によるフリンジ企画、レクチャー、フォーラム、展覧会といった関連イベントも開催。	・国際フェス ・舞台芸術の国際的プラットフォームを目指し、プロフェッショナルのネットワークを通じて舞台芸術の分野における活動の向上・発展を目指すディスカッションやプレゼンテーションと、時代に応答する舞台芸術作品を発見・紹介するパフォーマンスを中心に構成された「出会いの場＝ミーティング」。	・国際フェス ・「都市の祝祭 Arts and Cities」をテーマに、国内外130組以上のアーティスト・団体が参加し、現代美術、ダンスや演劇等のパフォーマンス・アートやオペラなどの世界最先端の現代アートをご紹介します祝祭的なにぎわいや盛り上げを図るイベントを行うとともに、公募による地元芸術文化団体等と連携した公演等を行います。(サイトより)	・国際フェス ・2011のタイトルは、「OUR MAGIC HOUR」。世界や日常の不思議、魔法のような力、さらには神話等に言及した作品に注目し、国内外で活躍する現代美術家の作品をはじめ、横浜美術館の所蔵品なども織り込んだダイナミックな展示を企画します。開港の地である横浜で、知らない世界の探求、新しい知識への航海ともいえるような展覧会をとおり、自由な鑑賞の旅を堪能してください。(サイトより)
プログラム		京都の劇団地点「こども劇」、杉原邦生『更地』、神戸のダンスボックス「循環プロジェクト」と「劇団ティクバ」のコラボレーション、海外からは、アイスランドのパフォーマンス・ユニット、レイジーブラッド、シンガポールのアーティスト、チョイ・カファイは2作品の連続上演、ブラジルのリア・ロドリゲスの作品を上演。一方日本からは、高嶺格がブラジルからインスパイアされた作品を制作。池田亮司が、「劇場」で作品を発表。スコットランドのアーティスト、ビリー・カウイーによる「3Dビデオ・ダンス」など。	3/11から約一年。地震・津波による災害と原子力発電所の事故は、生存の条件と社会の構造の根底を揺るがしています。TPAM in Yokohama 2012は、舞台芸術がその根底に深く関わることであると信念に基づき、この状況への応答となることを目指して開催します(サイトより)。若手キュレーターによるプログラム、TPAMディレクションや各国カンパニー公演によるインターナショナルショーケース、ディスカッションなどのネットワーク、公募による内外のアーティストによるプレゼンテーションプログラム、TPAMショーケースなどで構成。	・国内外から多数の作家が参加する現代美術の国際展のほか、若手作家等を対象とした企画コンペによる展覧会を開催します。/ダンス、音楽、演劇等の舞台芸術と先鋭的な美術表現が一体化した公演を行います。/先鋭的なコンテンポラリーダンスや、斬新なプロデュースオペラを行うほか、事業者等と連携したバレエ、コンサート等の公演を行います。出品作家や実演家等による作品制作・実演指導等のワークショップを行います。	運営の主軸が国際交流基金より横浜市に移り、横浜美術館が初めて主会場のひとつとなる。夏休み期間中に開幕日をずらし、より幅広い観客層に向けて横浜トリエンナーレへの回路が開かれた。科学や理性では解き明かせない領域に目を向け、開かれた世界との関わり方を示唆する作品を展示。美術館のコレクション作品も取り入れ、これまでとは異なる趣向で作品を展示した。東日本大震災の影響を受けながらも、予定どおり開幕。NPOとも特別連携を組み、市内のアート活動を同時に紹介した(サイトより)。
ディレクター		KYOTO EXPERIMENT プログラム・ディレクター橋本裕介(36) 京都を拠点に演劇、ダンスのプロデュースを手掛ける	・ディレクター(事務局長):丸岡ひろ ・TPAMディレクション・キュレーター/中村茜(33 株式会社ブリコグ代表取締役、NPO法人ドリフターズ・インターナショナル)、小倉由佳子(36 アイホール[伊丹市立演劇ホール]ディレクター)、大平勝弘(41 STスポット館長)、野村政之(34こまばアゴラ劇場制作)	・芸術監督:建畠哲	総合ディレクター:逢坂恵理子
実績 (来場者数等)		2010年より開催、2012年が第3回目。		・総来場者数:のべ572,023人(当初想定30万人)、・各プログラムのなかで国際美術展への来場が全体の87%、*中学生以下の来場者数が14.3%	総来場者数:のべ333,739人
評価の視点	芸術性	・他分野や異文化とのコラボレーション ・複数の芸術ジャンルにまたがる表現	・若手プレゼンター(制作者)がアーティスト共に主体的に創作表現に関わる。・表現者主体では生まれえなかった新たな表現の領域を目指す。	・国際美術展に比べ、他分野ではさほど新しい試みや表現、創作が希薄。・普及、啓蒙も重視	・科学や理性では解き明かせない領域に目を向け、開かれた世界との関わり方を示唆する作品を展示(サイトより)。
	観客の参加	・フリンジ企画やフォーラム、展覧会など幅広いチャンネルを設定	・一般制作者を繋ぐ「ネットワーク」プログラムであれ、その周辺の舞台芸術愛好者も巻き込む。	・期間中の県下の様々な文化活動も共催や関連事業としてトリエンナーレのフレームに入れている。・多彩なチャンネルを持つボランティア、サポーター制度	・4回目を迎え一般的認知度は高まっているはずだが、集客は前回比で約3万人と微増? ・黄金町パザール2011との連携などで間口を拡大 ・サポーター(ボランティア)
	国内への影響力	・ネットワークの構築 ・他者との出会い	・「出会いの場」＝ミーティングというコンセプトのもとに、新たな制作者のネットワークを構築している。	・業界内としては一回目にして横浜に次ぐ規模の大きい国際展としての認知を得た。	・横浜美術館をメイン会場とし、継続的、持続的な定着化、展開を試みる。
	海外への影響力	・海外アーティストとのコラボレーション(ブラジル、ドイツ、アイスランド、イギリス、シンガポール) ・サイト言語(日英)	・ショーケースでのプレゼンにより海外公演の機会を得るケースもあり。 ・サイト言語(日英)	・日中韓三カ国の国際展主催者を招いてのシンポジウムなど開催し、アジアを重視することで、横浜との差別化を図る。 ・サイト言語(日中英韓)	・歴史的な港町としての国際性 ・サイト言語(日英中韓)
	その他	・コンセプトなどを伝えるステートメントが充実(サイトなど)	・観客対象の1week9000円/パスや1day/パス3500円などのチケットを設定。インターナショナルショーケース観覧は1500円。	・国際美術展のチケット料金:一般1800円、大1300円、高700円	・チケット料金 一般1600円、大・専1000円、高600円、中学生以下無料、

参照URL <http://kvoto-ex.jp/>

<http://www.tpam.or.jp/2012/i/index.html>

<http://aichitriennale.jp/2010/index.html>

<http://www.yokohamatriennale.jp/access/index.html>